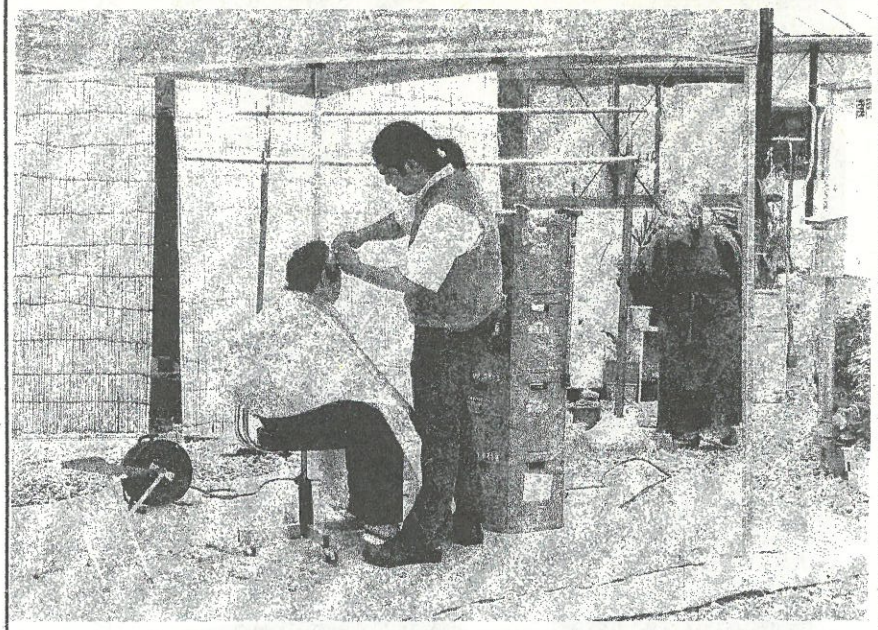
地域復興センター
準備会だより NO.2

第2号
発行日：1996.7.15
都市生活地域復興センター準備会
西宮市津門西口町7-3
TEL 0798-36-6679
FAX 0798-36-5114



津門住江公園仮設、6月13日、永田さんの青空美容室

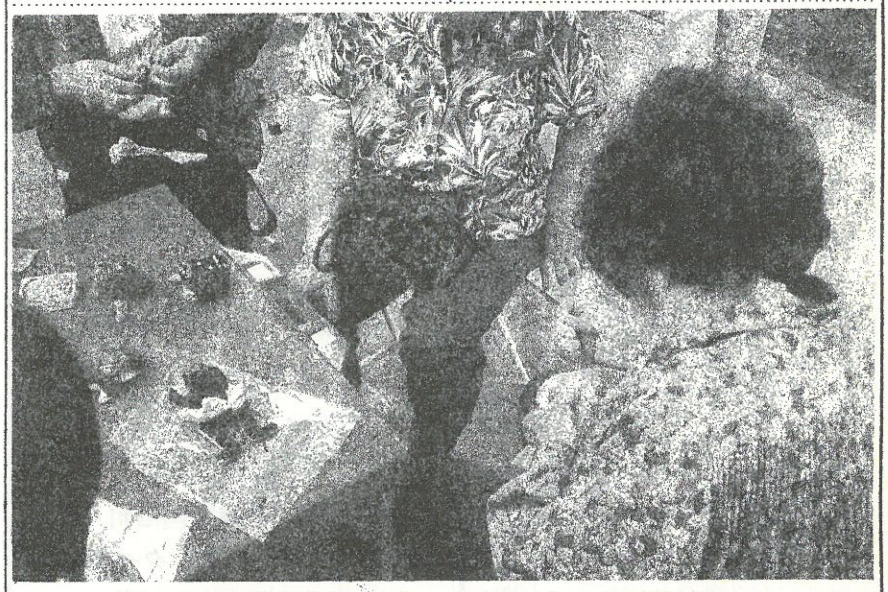
たまねぎ通信 その一

都市生活のすべての組合員のみなさん、ならびに全国の支援者の方々へ

みなさん、おかわりありませんか。であいのネットワーク“たまねぎの会”も発足からはや4ヶ月。手探りで始めた仮設住宅での交流会活動も少し形が見えてきたところです。ふれあいセンター（50戸以上の仮設住宅団地に付属する集会所）のない小規模仮設は、たとえ街中でも、忘れられたかのように“離れ小島”となっているのが実情です。そんな仮設住宅のひとつ、津門住江公園仮設住宅でたまねぎの会１回目の交流会をもったのも、活動センターやメンバーの地区から比較的足の便がよいということ以外、まったくの偶然なのですが、「また来てね。一緒にお花見を！」と、まるで私たちを待っていてくれたかのように自然な出会いがスタートしました。

「都市生活」という「食」をあつかう生協なのだから、炊き出しはもっとも自然な形の交流の仕方です。しかし、たかだか月に一回の食事の世話で生活が助けられるというものではありません。一緒につくり同じものを食べる時間の中で心がうちとけ、さりげない会話の中からいつしか、失ったもののこと、これからのことなどを語れるようになり、その共感の中から心の落ちつきや、元気の素が生まれてくれば……。私たち“たまねぎの会”が「同じ被災者としての立場での復興活動」にこだわる理由がそこにあります。

メンバーの数は現在20名弱。あまり無理のできない多忙なメンバーでの活動ですから、ゆっくり限度を守って行っているのですが、その限りある機会の中でも本当に貴重な出会いがいくつもありました。そのひとりは住江（中央）公園仮設在住の文筆家久保ミツエさんでした。ご好意から手渡された著書『夜明けの絶叫』の中に、「厳冬のふきさらしの中勇気を出して行った中央図書館で、やさしい笑顔のボランティアの女性から頂いた豚汁に、身も心も暖められた」体験が綴られていました。心が震えるような感動のその一節に語られているボランティアと



津門住江公園仮設、6月13日、青空手芸

は、まぎれもなく私たち“たまねぎ”の‘キャプテン’渡辺圭子さんその人のことでした。

震災後、少数の仲間とすぐに中央図書館での炊き出しを始めて、避難所閉鎖の6月末までやりぬいた渡辺さんは、「生協活動」と「救援活動」の間で悩まれた時期もあったにちがいありません。「ここで久保さんにお会いできてよかった」「“たまねぎ”を始めてよかった」……渡辺さんもまた、その“であい”によって救われたのではないでしょうか。

“たまねぎの会”では、皆の思いで、リーダーを置かないということに決めました。自主的な組合員活動として、個々のメンバーが自分の自立した意志でこの活動にかかわっているからです。対外的には代表が必要なので、渡辺さんを敬愛をこめて‘キャプテン’と呼んでいます。また、本部生活応援部会（震災をきっかけに結成された部会）にたずさわっている松尾さんを私たちの頼りになる‘部長’と、まるで学校の‘クラブ’のように呼んでいます。

たまねぎの会そのものが私たちにとって楽しい‘であい’の場となっています。十分な準備もないのにひとつのことを不思議なほどのチームワークでやってのけたり、初めてあった人でも、もう、ずっと昔からの友だちのように感じられたりするのはなぜなのでしょうか。このユニークでバラエティーに富んだメンバーのそれぞれの視点から津門住江公園仮設だけでなく、月にもう一度かかわっている西宮浜仮設ふれあいセンターでの茶話会のエピソードやそこでのまた別の素敵な‘であい’などもいずれお知らせしていけるのではないかと思います。

震災から一年半、「被災者の自立」と「ボランティアの引き際」がとなえられつづけています。しかし「自立」が必要だからこそ、「助け合って、共にそこまで行くこと」が大切なのではないでしょうか。「被災者」と「その他の人」に分けて線を引くことはできません。「復興活動」は特別な活動ではなく、この地域に生きる者の日常活動です。たとえば子供たちへの（大人へも）リサイクル教育活動も、環境運動や高齢者援助活動も私たちの安全な循環社会をもとめる生協活動だって、「復興活動」です。ボランタリーな（自発的な）活動は、どんな分野においても本来のあるべき姿です。この地の復興はまだまだこれからが本番なのです。

「たまねぎの会の今後は」と問われれば、「まだ始めたばかり。自主的活動として必要性があればメンバーも増えて続いていくであろうし、必要性がなければやめればよい」、こうメンバーの皆が答えると思います。関心のある方はどうか一度のぞいてみてください。

さてどうやら紙数がつきてしまったようです。今日のところはこの辺で失礼します。続きは次のお便りでお知らせしましょう。みなさまのご健勝を祈りつつ。　かしこ

T.Y.

津門住江公園仮設、6月13日、青空手芸教室、後方は炊き出しの準備

本文中で紹介された本

長崎での被爆と大震災とをかろうじて生き延びた著者の珠玉のエッセー

久保ミツエ著

『阪神・淡路大震災

夜明けの絶叫』

131頁、頒価800円

残部僅少、お問い合わせは下記まで

〒663西宮市津門西口町7-3

都市生活地域復興センター準備会

TEL 0798-36-6679

FAX 0798-36-5114

ηδξξσθλφ????